

図書館だより Vol.2 2021年9月



宝塚医療大学和歌山保健医療学部附属図書館



ごあいさつ

蒸し暑い8月も終わり、9月をむかえました。しかし9月になってもやはり暑いですね。近年の暑さは地球温暖化によるものではないかと考えられており、集中豪雨などの天候不順はこの温暖化によるものと言われています。

ところで、現在七夕は7月7日となっていますが、それは太陽暦に変わってからのお話で、旧暦の七夕は今年の場合8月14日にあたるそうです。今年も天候不順でしたが、旧暦でも織姫さんと彦星さんは無事会えたのでしょうか。

欧米ではこの9月から新学年が始まります。日本は4月から新学年が始まりますので、半年のずれがあります。明治期には日本も9月から新学年だったのですが、国の年度予算に合わせて4月に移行したと言われています。

さて、現在では大学は半年のセメスター制が導入されていますが、これは欧米に歩調を合わせるために行われたものです。この制度は、私の母校である立命館大学では私がちょうど学部2回生(1993年頃)から導入されましたので、旧課程の最後の学生となりました(通年で単位認定だから、単位が取れたかどうかは翌年分かる。でも定期試験は年2回というトホホな制度)。

この新カリキュラムの導入によって、例えば前期は日本の大学で学び、後期からの半年間は海外の提携先の大学で学ぶことができるようになりました。和歌山保健医療学部は専門色の強い教育機関です。したがって、在学中に海外で学ぶ機会はないかも知れませんが、皆さんが将来就職あるいは大学院に進学し、もし機会があったならば、海外の大学で学ぶのも新たな刺激となるかも知れません。

附属図書館運営委員長：松尾 博史



触れることの科学 なぜ感じるのか どう感じるのか

著者・翻訳者：デイヴィッド・J・リンデン、岩坂彰 出版社名：河出書房新社

やさしく撫でられるとなぜ気持ちいいのか？ポケットの百円玉を指先でどうやって見分けるのか、痛みと感情のつながり、痒いところをかきたくなるわけなど、私たちが日常当たり前に感じている「触れる」という行為の感覚の不思議やしくみについて、神経科学者のリンデン教授が脳神経科学に基づきながらも一般向けにわかりやすく面白く解説してくれています。

「治療すること」を「手当する」とも言いますよね？経験を積んだ理学療法士は、自分の指先で全身の細かな骨格筋まで相当精密に触察して識別できます。人が人のからだに触れるという行為は医療職である理学療法士、作業療法士にとってとても大切な行為だと思います。残念ながら本学の図書館にはなかったのですが、興味があれば研究室まで連絡してもらえたらお貸ししましょう。

推薦者：岸本 眞



もっとヘンな論文

著者：サンキュータツオ 出版社：角川書店

皆さんのなかには論文や研究というとても難しいものというイメージを持たれている方がおられるのではないかと思います。皆さんは論文を読まれたことはありますか？特に理学療法学や作業療法学に関連するものだけでなく、ほかの分野の論文も実は楽しく読めるものが多くあります。論文は、できるだけたくさんの人に読んでもらえるように、自分の研究を知ってもらえるように書かれているので、専門用語はありますが、論文を読むこと自体は皆さんが思っているほど難しいことではないのです。

今回紹介する本は、数ある論文の中でもとてもユニークな論文をまとめている本です。芸人でありながら大学の非常勤講師をしている著者が集めたユニークな論文を、とても読みやすく紹介しています。特にプロ野球選手と結婚したい方、カブトムシが好きな方には一読していただきたい本になっています。

ぜひ、この本を通して、論文や研究というものを身近に感じていただければと思います。そしてこの本は「ヘンな論文」の第2弾です。「ヘンな論文」は猫が好きな方、しりとりが好きな方におすすめの本になっています。本学図書館に「ヘンな論文」はありませんが、興味のある方はこちらも併せて読んでみてください。

推薦者：松寄 由莉

